

通し番号	4765
------	------

分類番号	27-24-12-01
------	-------------

‘湘南ポモロン’では側枝を伸長させることで品質・収量が向上する	
[要約] ‘湘南ポモロン’の露地作型では花房間に発生する側枝を伸長させることで果肩部の着色不良の発生を低下させ、果実品質の向上及び収量の増加が期待できる。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部・野菜作物研究課	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

本県で育成した生食・調理兼用イタリアンタイプのトマト‘湘南ポモロン・レッド’（以下‘SPL 25R’）及び‘湘南ポモロン・ゴールド’（以下‘SPL G3’）は露地作型で果肩部に生じる着色不良果の割合が高くなる。そこで両系統の露地作型において側枝伸長による果実の遮光が生育及び収量特性に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 両系統ともに総収量・総果数量は慣行区で少なく、摘心・側枝伸長区で多い。上果収量・上果数量は無摘心・側枝伸長区で多く慣行区で少ない。上果率は無摘心・側枝伸長区で高く、慣行区で最も低い。（表1）
- 2 着色不良の発生程度は両系統ともに慣行区で最も高く、側枝の伸長を行うと着色不良果の発生率が軽減される。（表2）

[成果の活用面・留意点]

- 1 栽培は直立1本仕立てで行い、栽植密度は畝幅125cmの2条植え、株間は35cm（栽植密度株254株/a）とした。
- 2 慣行区は7段果房上で摘心、側枝は全て摘除した。摘心・側枝伸長区は7段上で摘心、果房直下の側枝を伸ばした。無摘心・側枝伸長区は摘心を行わず、果房直下の側枝を伸ばした。
- 3 側枝の果実は着果させていない。

[具体的データ]

表1 収量特性

系統・品種	試験区	総収量 ²⁾ (kg/m ²)	総果数量 (果数/m ²)	上果収量 ^{y)} (kg/m ²)	上果数量 (果数/m ²)	上果率 (%)	下果種別構成比(総収量重量比(%))						
							乱形果	すじ腐れ果	尻腐れ果	裂果	小果 ^{x)}	着色不良果	その他
湘南ポモロン・レッド (SPL 25R)	慣行	7.0	88.0	2.2 b ^{w)}	28.4 b	30.9	1.2	1.8	2.3	21.6	0.5	31.4 a ^{v)}	4.9
	摘心・側枝伸長	8.2	100.5	3.3 a	40.6 a	40.0	0.8	0.9	2.4	19.3	0.4	23.1 ab	5.2
	無摘心・側枝伸長	7.6	96.7	3.4 a	42.5 a	45.1	0.9	2.0	2.4	18.4	0.9	18.8 b	6.2
湘南ポモロン・ゴールド (SPL G3)	慣行	7.8	103.4	3.0	40.2	38.0	0.9	11.2	5.9	21.7	0.7	16.8	4.7
	摘心・側枝伸長	8.7	110.8	4.0	52.6	45.9	0.7	13.3	7.6	13.0	0.5	8.8	7.2
	無摘心・側枝伸長	8.2	117.7	4.5	66.1	54.9	1.9	12.1	6.7	8.3	1.1	9.5	5.5

²⁾収穫期間は、2015/6/25～8/19、6～7段果房まで収穫。^{y)}A、B品の収量。^{x)}40 g未満。

^{w)}Tukey多重検定により異なる英文字間に5%で有意差あり。^{v)}アークサイン変換後Tukey多重検定により異なる英文字間に5%で有意差あり。

表2 着色不良果発生程度

系統・品種	試験区	発生率 ²⁾ (%)	発生度 ^{y)}
湘南ポモロン・レッド (SPL 25R)	慣行	52.1 a ^{x)}	44.9
	摘心・側枝伸長	45.8 b	37.0
	無摘心・側枝伸長	43.2 b	33.3
湘南ポモロン・ゴールド (SPL G3)	慣行	34.5 a	31.7
	摘心・側枝伸長	22.3 b	20.1
	無摘心・側枝伸長	20.2 b	15.7

²⁾表1では上果に含めた発生の軽微なものも含めて発生率とした

^{y)}発生度：100×Σ(程度別発生果数×指数)/(3×調査果数)

指数 0:発生無し

1:果実の1部分にのみ着色不良(上果に含めた)

2:果実の1/6～1/3程度の着色不良

3:果実の1/3以上の着色不良

^{x)}アークサイン変換後Tukey多重検定により異なる英文字間で5%で有意差あり

[資料名] 平成27年度試験研究成績書 野菜

[研究課題名] トマト湘南ポモロンの好適栽培技術の確立

[研究期間] 平成26～27年度

[研究者担当名] 安井奈々子、藤代岳雄

[協力・分担関係] なし